

ウィーン大学での発表（発表の2日前にウィーンマラソンが開催されるので、スポーツとことばの研究のためにこれも参加、ハーフマラソンの部に出場）のため、2016年4月8日14時35分に伊丹空港を出た。カタール航空は安い（ウィーンも6万円台）のだが、大阪出発だと東京回りとなるので時間がかかる。ウィーンに到着したのは現地時間9日午前11時25分であった。空港に着いたあと、鉄道そして地下鉄に乗りついでマラソンの事前受付のあるマラソンエキスポ会場（ウィーンメッセ）へ。そこでプログラムとナンバーカードとタイムを測定するチップと参加賞をもらう。そして、疲れたので、すぐにウィーン西駅の近くにある宿舎へ向かった。翌日4月9日ウィーンマラソン。寝ぼけた頭で地下鉄に乗ってスタート地点、国連ビルに向かった。うーん寒い。日本より1ヶ月ほど遅い気候だった。7時間30分ごろ会場に着いたのだが、人はまばら、近くの駅で暖を取りながら時間を過ぎ去るのを待っていた。そこへ日本人らしき大きな集団。声をかけるとやはり日本人でツアーの一行だった。スタート30分前になって荷物を運ぶトラックのところへ行こうと思ったが、トラックが見つからない。確か地図ではここのはずだったが…。私が思っているところより800m以上離れているところにトラックが止めてあってびっくり。もし見つからなければ、私の荷物はゴール地点まで運んでくれない、そう思うとぞっとした。荷物を預けてスタート地点へ。アップをしていたときに日本人サブ3ランナーに出会い、走りながら談笑。そしてスタートが近くなりスタート地点へ。スタートはフルマラソン、ハーフマラソンとも同じところで、申告タイム順でウェーブスタートであった。9時スタート。最低でも、1時間30分を切ろうと思ったがその気持ちも5キロまで、25時間のフライトだととてもそんなタイムで走れないと思い、完走狙いに変更。コースの途中オペラ座、ホーフブルク宮殿などを通った。さすが音楽の都ウィーンと思ったらあちらこちらでチアリーダーリングなどを見かけ、え、ここはウィーン？アメリカじゃないかと一瞬思った。15キロから寝不足のせいで頭が回らず、惰性で走り、相当疲れたが、何とかゴール地点ホーフブルク王宮の英雄広場へ…。そして、ゴール。1時間37分台だった。ウィーンに着いてから24時間も経っていない中でのレースなのでこのタイムは仕方がない。ゴールのあと出たビールが格別にうまかった。普段はほとんど飲まないのに…。そして完走メダルをもらい、荷物をもらいゴール地点へ。ランナーの様子をしばらく見ていた。

今まで、2002年天津、永同（韓国）（日本語学の国際会議の合間に一人で走る）2009年プサン（日本語教育の国際会議の合間に一人で走る）、2010年バンクーバー（ス

スポーツ関連の国際会議の合間に個人的に走る)、2011年台北(日本語教育の国際会議の合間に一人で走る)、2012年グラスゴー(IOCパラリンピック等共催の国際会議の後のイベント“5キロのファンラン”)、2013年ボストン(ハーフマラソン、ハーバード大学で行われた学際的な会議の前のレース)2014年パリ(パリでの学際的な会議の前に行われたパリマラソンのファンラン)、2015年ニューヨーク(母の日に行われたミニレース10キロの部に出場、プリンストン大学での日本語教育の会議の後に出場)2015年ベニス(10キロの部に出場、ボローニャ大学で行われた日本語学関連の会議の後に出場)2016年ソウル国際マラソン(高麗大学のセンターに訪問の後に出場)と、国際会議の時になぜか、その前後にロードレースが開かれ、その都市を見ながら走れ、スポーツ文化が学べて幸運である。走って、研究発表して、献本して、二つではなく三つのわらじをばく男なのかな(冗談、冗談、笑)。

話が変わるが、比較文法学者ミシェル・ブレアルが、近代オリンピックの祖といわれるクーベルタン男爵にオリンピック競技としてマラソン(徒競争)を進言した。そして、第一回オリンピック1896年のアテネで開かれマラソン競技も行われた。その地で毎年アテネクラシックマラソンが開かれる。私は、いつかそのマラソンに出たいと思っている。

話は戻って、マラソンが終って宿舎へ。

翌日4月10日、国際会議の会場のウィーン大学へ。その日は発表はないのだが、他の発表を見にとウィーン大学の日本語科の先生に会って本を献本するためにウィーン大学へ向かった。少し発表を聞いてからウィーン大学東洋学科のあるキャンパスへ向かった。日本語棟の建物に入ると熊本の写真とくまもんの写真が…。このとき、4日後に熊本で大きな地震があるとは夢にも思わなかった。

ウィーン大学のマダドナーめぐみ先生と会談、そのときに『研究社日本語口語表現辞典』『教育とことわざ』等を献本した。

会談が終わって、そのあと、学会の会場に戻って昼食券をもらいウィーン大学のレストランへ、割と料理が多くおいしかった。その場で唯一の日本人発表者の先生とその奥さん、そしてお父さん(お父さんも大学の先生)お母さんの一行と出会った。挨拶をして少し談笑。そして一行は先に食事を済ませ観光に向かった(かと思う)。

最後まで発表を聞いて、そのあと、トラムで市内を一周して周りの風景を堪能した。思ったほどウィーンの街は大きくないなと思った。

そして次の日(4月11日)の朝8時に会場についた。私の発表は午前のセッション2だった。午前のセッション1の最初のプレゼンテーションは、激しい議論でかなり盛り上がっている。英語に不安のある私は午前のセッション2もこうだったらどうしようかと思った。

午前のセッション1の二人目の発表の時PCの調子が悪くてなかなか写らない。しかし、プレゼンターは百戦錬磨、ユーモアのある話を交えて研究にいたったいきさつなど研究の周辺部分を話していた。PCの調子も良くなり何とかその先生のプレゼンテーションが終わり、そして、午前のセッション1が終わって休憩に入った。

そのときセッション2の私より発表のあとの人が、会の進行がかなり遅れそうだから、用事があるので先にやりたいと言った。セッション2の議長が「発表を遅くしてもいい人いませんか」と言ったので私が最後にしますと言った。そう言ったらそうだった。

セッション1とは違ってセッション2は、討論も穏やかに進んで、そして、発表が進むにつれて聴衆も減っていく。私のときは9人であった。緊張感もとれプレゼンが終わると質問が二、三あって終わった。やれやれだった。私の発表でこの会議が終わった。つまりこの会議のトリであった。

そのあと、ウィーン大学のレストランで食事を取って空港に向かった。19時5分発の便でウィーンを経た。今回も今までも同様、あわただしかったが、研究発表以外にもそれなりに楽しむことができた。トラムが気に入ったのでまたトラムに乗ってウィーンの町を楽しみたいと思う。





ウィーンシティマラソンの前日のマラソンエキスポ（ウィーンメッセ）

ウィーンシティマラソンについては <http://www.vienna-marathon.com/>参照

国際会議については <http://www.westeastinstitute.com/> 参照

アブストラクトは

<http://www.westeastinstitute.com/proceedings/2016-vienna-presentations/> 参照